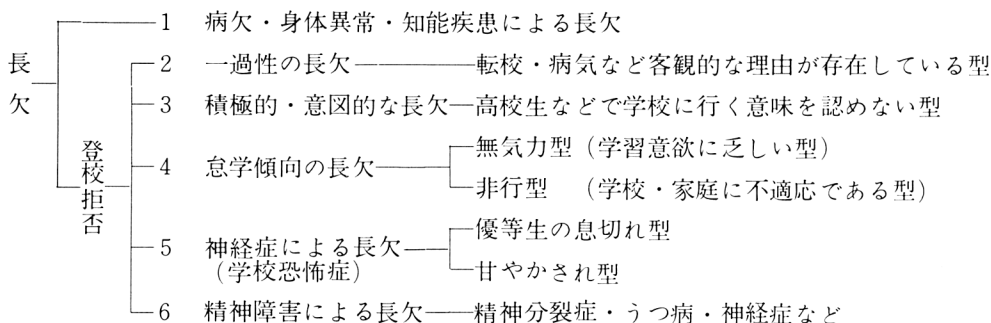


III 長欠児童・生徒の分類

長欠児童生徒の類型分類については、学者によってまちまちである。したがって、定説というものはないが、われわれが一般的に用いている分類を図示したので、それを参考にしながら、下記のとおりあつかい方を熟読された上でご活用されたい。



イ 1～4の無気力型までは学校および家庭の協力によって処理できるもの

ロ 4の非行型は、家庭・学校・補導センター・警察・などの協力で処理しなければならないもの

ハ 5の学校恐怖症は、教育センター・児童相談所・精神衛生センターなどの専門機関に扱いをまかせなければならないもの

ニ 6の精神障害型は、精神科医の診断治療を受けなければならないもの

（注）この分類のいずれの型に属すかを判別するのにも、相当の経験が必要であるので、早期に教育センターに連絡し指示を受けることが望ましい。

IV 長欠児童・生徒のとりあつかいについて

- 1 家庭の無理解がある場合には、父兄面接を数多く行ない父兄を説得するよう努力する。
- 2 貧困が理由の場合には、福祉事務所と連絡を取りながら指導を行なう。
- 3 いずれの型の長欠なのかを早急には握し対処する。

長欠が登校拒否である場合には次のとりあつかいをする。

イ 家庭に連絡し、強烈な登校刺激を加え、泣こうとわめこうと母親と一緒に学校に連れてこさせる。母親で駄目なら父親に連れてこさせる。この際、かわいそうだからと子供に負け易い父母の場合は、父母に対するカウンセリングを行なって耐性をつけるようにする。

ロ 「あしたから」の言葉に惑わされて退かないことが大切である。

ハ 家庭で押し出せない場合には、担任の教師が毎朝出向いて行って連れてくる。一日だけでなく、少なくとも一週間はこれを続ける。（夕方行くのは良くない）

ニ イ、ロ、ハを実施しても、拒否の程度が強くなったり、心気症的な症状が激しくなったら、家庭と協力して、今度は学校へ行けという刺激を一切加えないようにする。この場合も両親やその他の家の人が、ぐちっぽくなって、勉強のこと、学校のことを言いがちになるので、絶対にその言葉を口に出さないようにさせる。（父兄のカウンセリングが必要）